



## ほ場の融雪材散布について

本年は、1月下旬に降雪がありましたが、2月中旬に最高気温が8～12℃となり、一気に融雪が進みました。2月下旬に再びまとまった降雪がありましたが、アメダスポイントの積雪深は平年に比べ浅くなっています。また、普及センター調査の土壤凍結の状況は、前年対比で帯広では深く、更別では浅くなっています（表1）。

秋まき小麦のほ場では、極端に早い融雪は、凍上による根浮きを助長し生育不良になる場合がありますので、注意してください。

表1 2月末現在の積雪深と凍結深

アメダスポイントの積雪深(2/28)					土壤凍結 普及センター調べ (2/末現在)						
	帯広	帯広泉	芽室	上札内		帯広別府	帯広富士	帯広広野	帯広戸蔭	更別勢雄A	更別勢雄B
積雪深	49cm	42cm	49cm	49cm	R6凍結深	-29cm	-20cm	-13.7cm	-17.3cm	-18cm	-30cm
平年値	48cm	66cm	57cm	70cm	R5凍結深	-13.8cm	-19.8cm	-13.7cm	-12cm	-41cm	-38cm
平年比	102%	64%	86%	70%	前年比	210%	101%	100%	144%	44%	79%

### 1 融雪材散布時期

平均気温が-3℃以上になる頃で、最高気温が0℃を超える日が続き、新たな降雪の予報がない時期に散布します。当管内では、3月5日～15日頃が散布作業を始める目安となります（表2）。

表2 日平均気温が-3℃以上となる日 (注：アメダス地点の平年値(1991～2020)より)

帯広	帯広泉	芽室	上札内	更別
3月5日	3月11日	3月11日	3月15日	3月13日

### 2 融雪材の選定

土壤 pH が低いほ場は炭カル入り融雪材、土壤 pH6.0 以上のほ場はアルカリ分を含まない融雪材を選びましょう（表3）。

表3 主な資材の使用例

資材名(アルカリ分)	散布量の目安
防散融雪材(—)	20～40kg/10a
防散融雪炭カル(50%)	40～60kg/10a

### 3 融雪材散布上の注意

- ・融雪促進と散布効率アップのため、濃淡をつけた散布を心がけましょう。
- ・散布後に20cm以上の積雪があった場合は、再散布が必要です。
- ・融雪水が停滞する場所は排水対策(溝切り)をしましょう。
- ・早すぎる融雪は凍害を招くことがありますので注意しましょう。

**春作業が始まります。安全確認で取り組みましょう！**